

第6回飛騨高山学会

2024/11/30(土)⑧15:50～16:10



# 飛騨圏域で看護職を志向する高校生の地元愛を育む 高等学校での進路指導

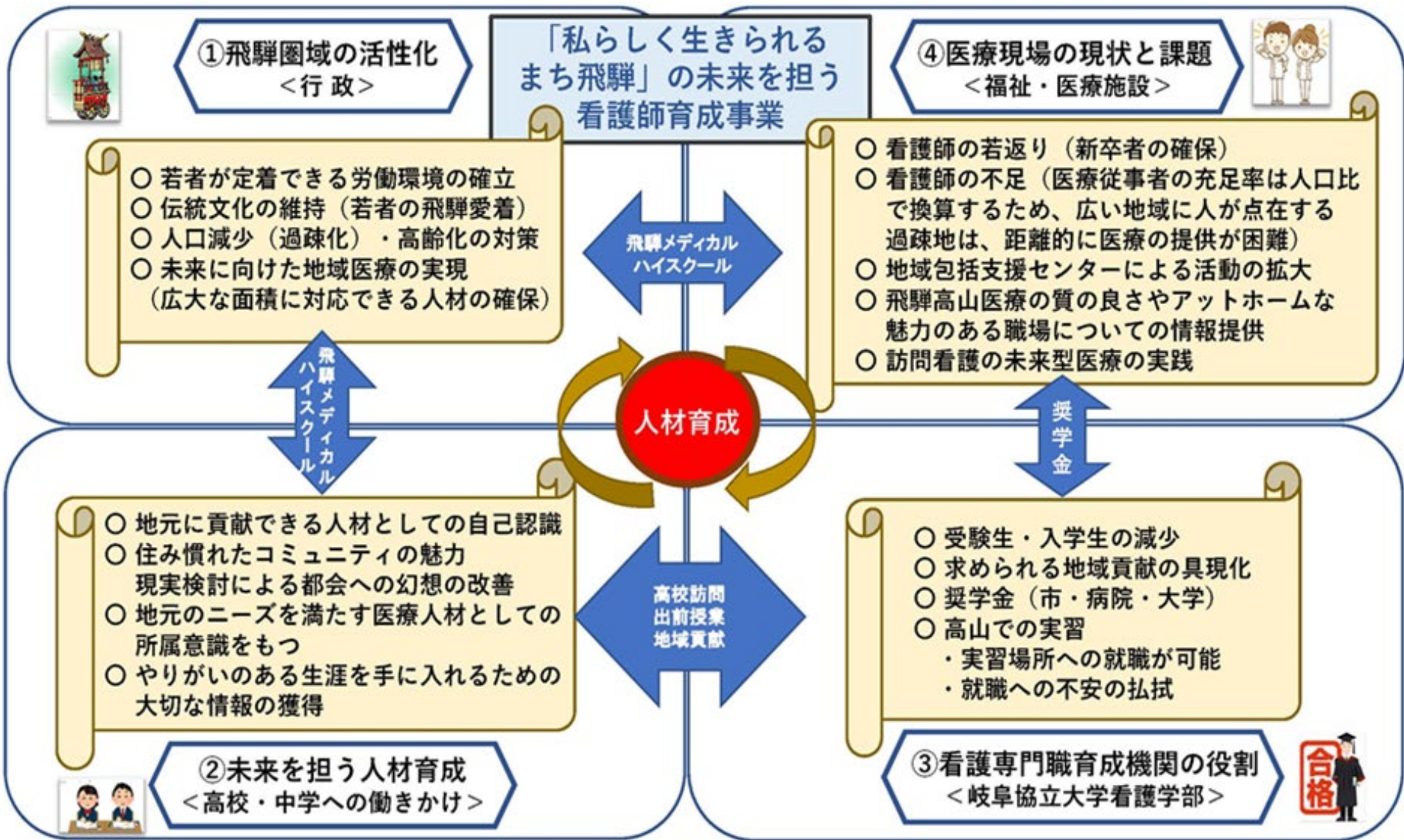
小野悟 遠渡絹代 臼田成之 神谷真有美 松原薫 奥村太志  
(岐阜協立大学 看護学部)

# 背景

- 飛騨圏域の人口は2015年～2025年にかけて約11%減少する見込みであり、岐阜県内で最も人口の減少率が高い。
- 急激な人口減少は、医療・福祉分野において顕著である。とりわけ介護施設における看護師不足は深刻な状況にあり、若手看護師の確保は喫緊の課題である。



- 飛騨圏域には四年制大学がなく、看護師養成校は専門学校の2校のみ。大学進学率が高まる中、次世代を担う人材の確保と養成のための方策が必要。
- 「飛騨メディカルハイスクール」施策も継続されているが、進路選択に大きな影響を与えるのは高等学校で進路指導を担当する教員である。
- 進路指導の実情を把握することが、高校生からの人材確保の鍵となる。



本調査は令和6年度岐阜県私立大学地方創生推進事業「「私らしく生きられるまち飛騨」の未来を担う看護師育成事業」の助成を受けて実施した。

# 目的

飛騨圏域にある高等学校での進路指導の現状と、看護職を志向する高校生への地元愛を育む進路指導における取組みの工夫を明らかにする

# 方法

1. 調査対象：飛騨圏域の高等学校6校において、進路指導を担当する教員計6名
2. 調査期間：2024年6月に高等学校に訪問して実施
3. 調査方法：データ収集は30分程度の半構造化面接を1回実施

## インタビュー項目

- ①進路指導やガイダンスの実施開始時期
- ②進路に関する具体的な相談内容
- ③進路を認識し始める時期
- ④大学の多様な入試形態に対する対応方法
- ⑤キャリア教育において大学に期待すること
- ⑥卒業生の進路（Uターン就職）の把握状況
- ⑦進路指導で大切にしていること

# 分析方法

1. 対象者の発言内容をデータとして、逐語録を作成したうえで、それらから意味内容が損なわれないよう要約を作成し、インタビュー項目ごとに要約した内容の類似性に沿って、整理して分類した。
2. 分類した内容から、進路指導の現状と、看護職を志向する高校生への地元愛を育む進路指導における取組みの工夫について分析した。

# 結果) ①進路指導実施開始時期

大分類

小分類 (抜粋)

1年生からクラス分けの準備を始め、キャリア教育など自分の適性を見極めていく

2年生からコース分けがあり、進路ガイダンスは高校に入ってから1年生から始める  
1年生から進路ガイダンスをはじめ、3年間の進め方を伝えている  
Uターンも期待して、1年生のうちにキャリア教育として地元企業説明会をしている

1年生の夏から模擬試験と進路指導を合わせてガイダンスを実施している

模擬試験の日を進路指導の日として業者に来てもらいガイダンスを実施している  
1年生の夏の模試から少しずつ進路の話をして、11月にガイダンスで進学先の話聞く機会を持っている

年間を通じて学年ごとに企業・大学に参加してもらい、進路ガイダンスや企業説明会を実施している

2年生、3年生は学年ごとに大学教員に来てもらい説明会を定期的に行っている  
5月に企業・大学の方に参加してもらい、進路ガイダンスを実施している  
7月に進路指導の日として地元の企業に来てもらい、体験型の企業実習をしている

進路決定後に卒業生として自分の経験を語ってもらう

進路が決まった後に卒業生として同じ学部を志望する生徒にそれまでの経験を語ってもらう  
卒業生として中学生のオープンキャンパスで入学後の生活について話してもらう

## 結果) ②進路に関する具体的な相談内容

大分類	小分類 (抜粋)
夢や目的意識がなく、自分のやりたいことが見つけれない	進学や就職かが決められない
	自分のやりたいことをどうやって見つけたらいいのかわからない
	早めに決められない、就職を先延ばしにしたい
	家で親と自分の進路について話さない
	受験する学校の決め方がギリギリまでわからない
	夢や目的意識を持てないままに入学してくる
奨学金や学力などの現実的な相談	就職か進学かで迷う、奨学金、学力という現実的な悩み
	目指す職種になるための科目選択についての相談
	看護系の試験や専門学校についての情報を知りたいという相談
	面接内容についての相談
岐阜県内の地元の就職先の希望についての相談	岐阜県内の地元の就職先の希望についての相談

## 結果) ③進路を認識し始める時期

### 大分類

### 小分類

進路を考え始めるのは2年生、現実的に進路を決めるのは3年生になってから

進路を考え始めるのは2年生で、現実的に学部を決めるのは3年生になってから  
3年生の模試で希望学部を書く頃から意識する  
進路を決めるのは3年生、遅い子は夏休み明け  
多くは推薦で決めて、ほぼ3年生で進路を決めていく

1年生から2年生にかけてのクラス分けから意識し始める

2年生のクラス分けから進学先を意識し始める  
1年生後半にクラス分けの希望を出すところからイメージする  
普通科と理数科のコースに分かれてから

部活に取り組む生徒は、大会終了後になるため進路を決めるのが遅くなる

部活を一生懸命やっていると、引退後になり、遅くまで決まらない子もいる  
部活の大会が終わってから、進路を考え始めるので遅くなる

## 結果) ④大学の多様な入試形態に対する対応方法

### 大分類

### 小分類

最新の情報を得ているが、入試が複雑になるほど忙しくなると覚悟を決めている

入試の方法が複雑になればなるほど忙しくなる

受験に関する最新の情報を得たりしている

小論文や推薦文、面接指導など、学校全体で対応を行っている

総合型が始まると推薦文と生徒指導で大変になる

7月から秋に小論文や面接指導を個別・集団でおこなっている

生徒1人に教員2名をつけて対応している

専門の先生に割り振って個別で対応している

大学に受かりやすくなって、進学希望がかなり増えている

大学が受かりやすくなったので、進学にシフトしている

4年制大学でゆっくり学びたいという思いがある

# 結果) ⑤キャリア教育において大学に期待すること

## 大分類

## 小分類

高校生の選択とミスマッチがないよう、大学での実際の学びと高等学校での学びがつながるとよい

学部学科説明会で、大学教員から直接看護について話をしてもらいたい  
高校生の選択とミスマッチがないように、総合探求と大学での学びの橋渡しのことができない

大学生が説明に来てくれたり、大学で学べること、授業方法など詳しく教えてほしい

学部生が来てくれたり、学科で学べること、授業方法などもっと詳しく教えてほしい  
3年間を通してコンピテンシーやテストで伸びることを説明してくれる

実際に働いている看護師から、仕事の内容や資格について話してもらいたい

実際に働いている看護師から、どのような仕事があるのか、取れる資格について話してもらいたい

進学・就職説明会で卒業後の就職先などの話を聞かせてもらいたい

分野別の説明会で看護を希望する学生に就職先などの話を聞かせてもらいたい  
進学について地元の就職・進学先を説明する機会があるといいが、時間がない

オープンキャンパスで行きたい所を自分でしっかり見て、感じてきてほしい

オープンキャンパスで自分の行きたい所をしっかりと見て、感じてきてくれたらいい

看護と医療の現状や入試について教えてほしい

看護と医療の現状や入試について話してほしい

看護師の希望者が少ないので、来てもらうのも申し訳ない

学生が少ないと看護の希望者も少ないの申し訳ない  
特に思いつかない

## 結果) ⑥卒業生の進路 (Uターン就職) の把握状況

大分類	小分類
進路調査はしていないため、大学教員や卒業生、企業の方の訪問時に情報を得る	大学の先生が訪問時に教えて頂く
	卒業生が訪ねてきたときに聞く程度
	企業の方から情報を頂く
	把握していない
同窓会で就職先について情報を得る	同窓会で就職後の情報を取っている

## 結果) ⑦進路指導で大切にしていること

大分類	小分類
本人が自分の意思で納得して進路選択できるように情報を与えている	進路選択のメリットデメリットを伝えつつ、自分で腹落ちして決めきること
	お金のことでは親の意見が強く響くが、本人の意思を一番に考えてもらうこと
	本当にベストの選択なのかを考えて、本人が決定しやすいように情報を与えてあげること
自分のやりたいことと適性のミスマッチをせず選択できるように支援する	本人のやりたいことと適性がマッチしているか、ミスマッチがないようにすること
	看護といっても、その適正を考えて、自分でこれがやりたいと思えるようにしたい
進路を決めたらあきらめないように生徒の頑張りに合わせて声掛けをする	進路を決めたら、折れそうになっても諦めないように持っていさせること
	学生の頑張りに合わせて、声掛けを変えること
進学・就職先の社会とのつながりを考えられるように支援する	学部選択とその後の社会とのつながりについて考えられるようにしている
	大学進学や就職がゴールではなく、その先を見据えて考えること

# 結果) ⑧医療・看護を目指す割合とその特徴

大分類

小分類 (抜粋)

医療・看護系を目指す生徒は毎年10名くらいで男子もいる

看護大学や看護専門学校で約30名くらいいる

看護を目指す子は毎年10人前後で男子も1~2名いる

資格に関する手堅い進路は人気がある

親や実際に働く姿を見て、看護師や教師を目指す進路希望者が多い

看護師として働く親を見て自分もなりたいと考える

どこの看護大学に進学するか、メディカルハイスクール等で決めていく

実際に働く姿を見る機会の多い教員や医療職の希望が圧倒的に多い

看護師を目指す生徒は中学生時の看護体験などで、高校入学時に進路が決まっている

看護師を目指す子は高校に入ってから来た時点で進路が決まっている

中学生の時に看護体験をしたり、割と早い段階で医療に興味を持っている

最初から医療系に行く決めてきている子も多い

看護師を目指す生徒は地元で就職したい思いがあり、家から通える専門学校がメリット大きい

地元の専門学校を志望する学生は地元で就職したいという思いがある

授業料の要素が大きく、家から通える専門学校の方がメリットが大きい

大学を考える子は専門学校を中心に近隣か、愛知県の大学に行く状況がある

看護師を目指す生徒は総合探求として飛騨圏域の地域医療を調べて理解する

探求飛騨という授業で地域医療について自分たちで調べて理解する

# 結果) ⑨Uターン就職の現状と地元愛を育むための取組み

## 大分類

## 小分類 (抜粋)

地元に戻りたい生徒もいるが、ライフステージに合わせて本人の選択と地元のすり合わせを考える

地元に戻ってきたい生徒もいるが、大学で飛騨地区を出る子が多く、ライフステージに合わせて、本人の選択と地元のすり合わせを考える  
将来地元に戻る生徒は多いが、大学卒業後になりたいものを見据えて進学することを大切にする

地元にも仕事や職場があることを理解してもらうために、インターンシップや説明会の参加を進める

地元に通じる企業があることを知らないまま出て行ってしまう  
地元にも働く場所があることを期待して地元企業説明会を1年生のキャリア教育で実施している

総合探求の授業で高山市の医療や高齢化について調べたり、市役所や病院の出前授業で地元愛を育む

総合探求の授業で高山市の医療の現状や高齢化について考え、地元愛につながればと思う  
愛着の変化はまだないが、高山市のことを凄く考えて見ている  
近隣の病院からの出前授業や総合探求で地域医療について調べたりしている

看護師を目指す生徒は地元志向が強く、教員が変わらないことで県内に進学・就職する

一旦地元を出て行って、大学卒業して戻ってくる子は医療系や公務員と一般企業くらい  
就職で通える範囲で高山の方の病院や診療所に行くパターンもある

自然の豊かさなど高山の魅力を感じているが地域特有の生活の不便さがある

高校生が一人で行くには高山はなかなか難しい生活圏  
遊ぶ施設が少なく、出かけるのも大変という不便さがある

地元愛があったとしても、都市部とは給与や福利厚生面が全然違うため戻ってこない

基本給や福利厚生面が都市部とは全然違うので、都市部に行くとなかなか戻ってこない  
地元が好きって言うても、条件が違うから、進学先で就職してしまう

# 考察

- 高等学校では1年生から自分の適性に気付き、就職・進学した先の社会とのつながりを考えて、**納得して進路選択ができる**よう進路指導がなされている。
- 自分のやりたいことが見つけれない生徒にとっては、自分の個性を理解し、**主体的に進路を考えられる**ように工夫されている。
- 地元愛を育む取組みとして「総合的な探求の時間」を効果的に活用し、地元の医療や看護の現状について自ら調べ、課題を分析し、**医療・看護職として地域貢献できる生き方や働き方を深く考える**ことで、飛騨圏域での将来的な就業選択に寄与するものとする。



- 看護系大学に進学することで、どのような場所で、どのような働き方ができるのか、具体的に考えて進路選択ができる情報提供を行い、就職への不安を払拭するなど、**高等学校と協働を図る**ことが求められる。